

平成26年度倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

開催日時) 平成26年7月30日(水) 14時～16時

開催場所) 倉敷市立自然史博物館連絡室

協議事項) 平成25年度入館者数について
平成25年度事業報告および決算報告
平成26年度事業計画および予算説明
その他

出席委員) 榎本敬委員, 河邊誠一郎委員, 小橋理絵子委員, 小林祥一委員, 佐藤國康委員, 島岡浩恵委員, 園田昌司委員, 地職恵委員, 薮田尊典委員

欠席委員) 鴨井香織委員

事務局) 井上正義教育長, 中原誠二生涯学習部長, 天本隆士館長, 江田伸司主幹, 狩山俊悟主幹, 奥島雄一主任, 武智泰史主任

傍聴者) なし

議事録（要旨）

1 開会

2 開会あいさつ

井上正義教育長

3 新任委員のあいさつ

小林祥一委員

4 委員・職員自己紹介

5 会長・副会長選出

榎本委員を会長に, 河邊委員を副会長に選出。

6 協議

(1) 平成25年度利用者数について

(事務局) 資料をもとに説明。25年度の利用者は54,017人と18年度に次いで多かった。開館以来、漸増傾向にある。25年度は特別展「昆虫とあそぼうよ」の人气が高かったが、自然史博物館まつりは雨のためやや来場者が少なかった。全体的に中学生の利用が低調である。

(2) 平成25年度事業報告について

(事務局) 資料をもとに説明。

(3) 平成25年度決算報告について

(事務局) 資料をもとに説明。

(4) 平成26年度事業計画について

(事務局) 資料をもとに説明。

(5) 平成26年度予算説明について

(事務局) 資料をもとに説明。

議長：それでは、事務局の以上の説明について、ご意見・ご質問等はありませんか。積極的なご発言をよろしくお願いいたします。

委員：倉敷市立自然史博物館は魅力ある施設だと思う。昨年、30周年記念として行われた特別展「昆虫とあそぼうよ」を見た。良かったと思う。今後、夏になれば昆虫と触れ合えるということで、毎年、開催しても良いのではないか。一方、常設展は専門家が見ればよいと思うかもしれないが、一般の方が見てもっとわくわくするような見せ方はできないか。また、今年の特別展「幻の青い鳥ブッポウソウ」を見たが、なぜ、その名になったかがわかればよい。命名は鳴き声によるものか。

事務局：「昆虫とあそぼうよ」については、一般のお客様からも今年はやらないのかと問い合わせがあった。30周年記念であったが、特別展の予算としては例年並みで、多くのボランティアの協力で行えた。展示に使った生きた昆虫の採集に対する謝金も払えなかった。仮に業者に委託すると多額の予算が必要になる。職員・ボランティアともにやや無理をした感がある。会場係の謝金は7時間で2,000円だった。毎年の実施は困難で、将来、より改善した形で行えればと考えている。

常設展についてはハンズオン展示・ビデオコーナー・虫の鳴き声の放送・昔のおもちゃ遊びコーナーなどを取り入れているが、将来の展示更新を機にこれを増やしていきたい。なお、展示の観覧をきっかけにして野外で自然にじかに触れ合うことのできる自然観察会に参加する機会も多く提供している。倉敷市立自然史博物館では展示・自然観察会を通じて「命の大切さ」を教えるようにしている。

ブッポウソウの命名は他の鳥の鳴き声と間違ってしまったことによるものである。今年の特別展

「幻の青い鳥ブッポウソウ」では、あまり聞きよい声ではないが、ブッポウソウの鳴き声を流せばよかったと思っている。

委員：倉敷市立自然史博物館専用の野外（フィールド）があればよい。学芸員が海外に研修に行けるような機会が1～2年に1回あり、それを業務に活かせばよい。倉敷の自然をまもる会では西坂にあるフィールドの草刈りをして、そこを子どもが自然に触れ合えるような場所になっている。このフィールドの維持管理を市にしていきたい。

委員：大学もだが、諸活動には助成金などの外部資金が重要になる。26年度はその予定はあるか。

事務局：25年度に実施した「まちかど博物館」については展示物が壊れない限り、続けていくつもりである。「脊椎動物グループ」については、25年度の38万円の助成金については標本を作ることができる人を育てる目的で認められたものである。その後、人材がある程度育成され、26年度については倉敷市立自然史博物館友の会の「脊椎動物グループ」の活動として43万円が採択された。これを足がかりにして事業の継続を目指したい。

また、大阪のタンポポ調査実行委員会が中心となって実施されている「タンポポ調査・西日本2015」では、事務局が獲得した助成金を使わせてもらってさまざまな活動を行っている。

また、11月に当館で行われる甲虫学会については倉敷観光コンベンションビューローから10万円の助成金の承認を得ている。これは実施する事業に150人以上の参加があり、この半数以上が市内の宿泊施設を利用することが条件となっている。

委員：倉敷市立自然史博物館の地学のホームページは年々良くなっている。ある程度、作業が一段落したら親子で楽しめる出版物にしてみたい。また、子どもに人気のある夏休みの企画として昆虫採集に関する行事を計画してはどうか。スケッチ大会も良いと思う。ここは自然史博物館と図書館と美術館がそろっているいわば文化ゾーンである。その3館がタイアップした行事があればよいと思う。倉敷市立自然史博物館の各担当の学芸員がギャラリートークをしたらどうか。視聴覚機材を活用しても良い。

委員：その意見に関連して、現在の市の施設としてはいろいろあるが、互いの連携はどうなっているか。倉敷市立自然史博物館だけを見て面白かっただけではなく、他館との連携事業（スタンプリナーなど）を考えても良いのではないか。

事務局：現在作成している地学のホームページは既存の出版物を参考にして、それを図解したものである。その元となった本は岡山県立図書館に多くある。親子で楽しめる本としてはとりあえずそれを参考にされても良いと思う。ギャラリートークについては特別展で現在、職員が時々やっており、何人かの人とは話をしている。ただ、特別展以外では行っていない。

事務局：特別展ではこれまでに何度かギャラリートーク的なことをしている。

委員：ギャラリートークについてはフェイスブックなどに予告して実施してほしい。

事務局：現在、ギャラリートークに近いものとして、展示室におけるクイズを行っている。倉敷市立自然史博物館友の会幹事ではない方が3名、ボランティアとして行っている。その方たち自身が考えた問題をまじえてクイズを実施している。現在は試行期間と考えている。3名で行っているが20人来ると対応が難しく、時間差をつけるなどの工夫が必要になる。このボランティアをもっと増やしていきたい。

委員：倉敷市立自然史博物館の利用者として中高生が少ない。子どもは中学生になると理科に興味なくなる傾向がある。中学校時代に習う理科は重要で、それから面白くなり、自然科学に興味を持っていく人が多い。

事務局：中学生は、学校では部活動、さらに受験勉強で忙しく、時間のある休日は寝ていることが多いように思う。ゆえに当館の利用は「むしむし探検隊」を除いては少ないのではないかと考えている。中学校・高等学校の理科の授業では理論や実験が主であり、自然体験は弱い。なお、高校生は学校の課題学習で来館することがある。

委員：博物館実習では学生がお世話になっている。どのようなボランティアを必要としているか。町中では高齢者と子どもと一緒に歩いている姿をよく見る。高齢者と子どもと一緒に楽しめる企画はないか。

事務局：標本作成・脊椎動物グループ・倉敷市立自然史博物館友の会の幹事・倉敷市立自然史博物館でのクイズのボランティアなどがあるが、当方であまりうまく宣伝できていなかった。ボランティアには年齢制限はない。展示ガイドボランティアとしての目標は展示室で解説を行えるようになることである。現在ではホームページを見てボランティアに申し込まれる方が多い。高校生以下と65歳以上は無料なので、当館では祖父母と孫と一緒に見学されている姿もよく見かける。

委員：私はかねてから何度も言っているが倉敷市立自然史博物館は収蔵庫が狭い。植物標本はぎゅうぎゅうになっている。大きな収蔵庫がぜひともほしい。大阪市立自然史博物館では大きい収蔵庫を新設したが10年でいっぱいになった。作るなら最初から大きい収蔵庫を作るべきである。

事務局：収蔵庫を本館と離れた所に設けることについてはどう思われるか。

委員：普通は本館と同じところにある。

委員：国立科学博物館は東京都上野と茨城県つくば市に分かれて存在している。

事務局：国立科学博物館は展示部門が上野で、研究部門と収蔵庫はつくば市ということになっており、職員の配置もそれに依っている。

委員：倉敷市立自然史博物館では前をすべて地下駐車場にして、地上に収蔵庫を作れないか。

事務局：1983年の開館当初は標本数が70万点にもなるとは考えていなかったのではないかとと思われる。収蔵庫の在り方については今後検討したい。

委員：倉敷市立自然史博物館については当時の滝澤市長・三島教育長が大阪市立自然史博物館に見学に行ったことをきっかけに1展示室から1館への拡大が決まった。

委員：ボランティアの養成講座をしてないのか。

事務局：具体的には行ってない。

委員：倉敷市立自然史博物館友の会の幹事は十分その力はあると思う。

委員：倉敷市立自然史博物館友の会の幹事はよくやっている。

委員：現有の70万点の標本の内、現在、何点を展示しているか。

事務局：約1万1,000点展示している。あとは特別展や特別陳列などで展示している。

委員：展示についてはわくわくするような仕掛けがほしい。照明方法に工夫をしてはどうか。全体を暗くして、見せたいところだけを明るくするとか。

事務局：今後検討したい。

議長：他にご意見ご質問等がないようですので、本日の協議を終了させていただきます。

7 閉会あいさつ

中原誠二生涯学習部長：本日は貴重なご意見をいただいた。自然史博物館と図書館と美術館の3館のタイアップは検討していきたい。「まちかど博物館」を貸し出した施設にも倉敷市立自然史博物館のパンフレットを配置したい。本日の貴重なご意見を今後の施策に活かしていきたい。

8 閉会

(事務局) これにて平成26年度倉敷市立自然史博物館協議会を終了する。

協議会終了後、特別展「幻の青い鳥ブッポウソウ」を見学。

以上を、平成26年7月30日開催の平成26年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

平成26年 8月19日

倉敷市立自然史博物館協議会

会 長 榎 本 敬

